



冬のボーナスカットを許さないぞ！シリーズ⑨

JR東海ユニオンが冬のボーナス要求 安定的支給ベースを下回らない根拠は何か？

JR東海ユニオンは10月8日、2.9ヶ月の年末手当の要求を提出しました。この2.9ヶ月とは、会社がこの間ボーナス団交で主張してきた「安定的支給ベース」の数字と同率です。

同じJR連合傘下のJR西労組は10月2日、1.5ヶ月で妥結しました。JR東海ユニオンがこの様子を見ながら判断したのは当然ですが、JR東海ユニオン指導部の本音は、恐らくJR西労組と歩調を合わせたい、つまりJR西日本よりも突出した要求は避けたかったのでしょう。

その一方、JR西労組組合員の間では、1.5ヶ月という超低額妥結に対し、怒りや不満が渦巻いていると聞こえてきます。JR東海ユニオン指導部は、組合員の不満を抑えるためにはある程度の要求が必要だし、あまり高い要求を出せば会社が嫌がるという狭間で葛藤したのだと考えられます。

しかし、忘れてはいけません。会社が言う2.9ヶ月の「安定的支給ベース」を表面化させ、ボーナス削減を許さないために様々な主張をしてきたのは、紛れもなくJR東海労です。ボーナス団交は、今月22日から始まります。JR東海労は、社員の立場で、3.5ヶ月満額回答を目指し交渉に挑みます。

**JR東海労はコロナ禍を理由に労働者へ
我慢と犠牲を強いる会社を許しません！**